



## 「たくましい」子どもを育てる

5月17日(金)の体育大会の練習は「開会式」。

今年のスローガン「元気な高島 全力の汗」をみんなで言うところを練習しました。

いつもよりちょっぴり元気のない声でした。

一通り終えたところで、福山先生と子どもたちは輪になって座りました。

そこで、先生は優しく子供たちに語りかけます。

「スローガンは、何のために言うのかな？」

考える子どもたち。そして

「島の人を元気にするため」

「風に負けないようにするため」(この日、風が強か

ったことから、一生懸命に考えてくれました。私(森)は、このような子どもらしい発言が大好きです)

などなど、子どもたちの考えが出てきました。先生は、

「そうだよね。島の人を元気にするため、風に負けないように元気にするためにスローガンを言うんだよね。」と優しい笑顔で子どもを見つめながら話します。

うなずく子供たち。続けて先生は問いかけます。

「そしたら、島の人たちに届くように言うにはどうしたらいいかなあ。」

さらに考える子どもたち。

先生は、「伝える言い方と伝わりにくい言い方のモデルを示して、どちらがいいかを考えさせました。」

もう一度練習した時には、最初とは見違えるほど元気な声が響き渡りました。



自分で課題を解決しようとする「たくましい」子どもを育てるには、福山先生のように「**目的を問いかける**」→「**子どもに考えさせる**」→「**モデルを示す**」→「**もう一度取り組ませる**」→「**ほめる**」という丁寧な指導が欠かせません。

「元気な声を出す」という一場面ですが、このような一つ一つの指導の積み重ねが、極めて重要です。

福山先生の問いかけを真剣に受け止め、考える子どもたちの姿を見て、素晴らしい子どもたちだと心から嬉しくなりました。